

### 3月の予定

- 3日 ビデオ&詩篇朗読&書き取り  
3月生まれの人に祝福のお祈り
- 10日 きっず・らんど
- 17日 ビデオ&詩篇朗読&書き取り
- 24日 お話&詩篇朗読&書き取り
- 31日 イースターこども会

### チャレンジ! 暗誦聖句

平和をつくる者は幸いです。その人は神の子どもと呼ばれるからです。

マタイの福音書 5章9節

# る ば の こ



## 教科書にでるクリスチャン偉人伝 『シュバイツアー』

アルベルト・シュバイツアーは、1875年ドイツのカイザースベルクという町に生まれました。父は牧師で、彼は5歳から父にオルガンを教わり、9歳のときには教会のオルガン奏者の代理を務めることができるほど、すぐれた音楽の才能の持ち主でした。16歳で、ミュルハウゼン教会のオルガン奏者になったシュバイツアーは、前途有望な音楽家として活躍するようになりました。

また、子供の頃から聖書に親しんでいた彼は、大学では、神学と哲学を学び、24歳で哲学博士、25歳で神学博士になり、母校シュトラスブルク大学で、神学を教えるようになりました。多くの論文や本を出版し、定期的にオルガンの演奏会を行ない、宗教家・哲学者・音楽家として、若くして、名誉も成功も手にいれることができたのです。

しかし彼には『人のために尽くして生きたい』という願いがありました。29歳になったとき、コンゴの人々が病気に苦しんでいることを知り医者となってアフリカに渡る決意をしました。彼は、7年の間、神学部の教授の仕事の続けながら、教会の副牧師として働き、医学部の学生として勉学に励みました。晴れて医者となったシュバイツアーは、1913年4月、コンゴのランバレネへ宣教師として派遣され、設備も薬品も人手も不十分な中、すぐさま、診療を開始したのです。

当時のアフリカの人々は、病気は全て悪魔の仕業であると考えていました。そのため、適切な治療が行なわれず、まじないのため川に沈められ命を落とす人もいました。大昔から信じられてきた事を変えるのは困難でしたが、シュバイツアーは根気よく説得を続けました。病院の評判はあっという間に広がり300キロメートル離れた村からも、患者が訪れるようになりました。看護師の妻ヘレーネと共に、ほとんど休みなく働き続ける姿に、アフリカの人々は大きな信頼を寄せるようになりました。

忙しく医療活動をしながら、みずから病院建設の現場で大工仕事に汗を流すシュバイツアーを見て、患者の家族は協力を惜しまず、みんなで力をあわせて、入院病棟や患者の家族の宿泊棟を作り上げていきました。

「神の愛とは、ともに苦しみを分かち合うこと」「すべての命は尊く、どんな命に対しても恐れ敬うことを忘れてはいけない」=『生命への畏敬』を人々に説きつつ、世界平和を訴え続けた彼に、1952年ノーベル平和賞が贈られました。第一次大戦のために、一時中断したものの、およそ50年の間、彼が協力者と共に診察した患者の数は、150万人にもものぼるといいます。1965年、彼は神に感謝しつつ、ランバレネで亡くなりました。

加古川福音キリスト教会日曜学校部 発行

牧師 楠橋 清隆・喜代子

TEL 079-425-1406

## 編集後記

今朝、二羽のハトを見ました。

一羽が自分の顔ほどの大きさの餌をくわえていました。スナック菓子のようなものでした。大きすぎて食べられないらしく、首を振って苦心していましたが、ぼとり落としてしまいました。すかさずもう一羽が横取りして、すんなりちぎって食べたのですが、なんと半分残して飛び去ってしまったのです。食べ損ねていたハトは、同胞の思いやり? の残りを、おいしそうに、ついばんでいました。

シュバイツアーは、『生命への畏敬』という言葉をかバの群れを見て、突然思い浮かんだそうです。なぜかバなのか、彼は語らなかつたので、今となっては謎ですが、確かに、動物の生きる姿は、単純であるがゆえに、力強く、またそのひたむきさが愛おしいと感じさせるものだと思います。

昨今のニュースを見ると、人間は、あまりにもいろいろなモノを身に着けることに忙しくて、神様が与えて下さった、本当に大切なものを大切にすることを忘れていく気がします。モノに惑わされて、雑に生きている気がします。与えられた命を、丁寧に、生きたいです。